北海道苫前町議会 2026 ～住民の意見を行政に～

議会だより

No.145

苫前郡苫前町字旭37番地の1

発行日　令和8年10月27日

議会報発行
特別委員会
委員長
早川日出利
副委員長
田沢　收
委　員
伊藤まち子
服部　大輔

苫前厚生クリニック経営損失補償金等の補正予算可決！

令和8年第3回町議会定例会は、9月15日に召集され、会期を17日までの3日間と決定。

町長からは条例2件、予算4件、認定2件、同意1件、報告1件、その他1件、議員から意見案1件、その他3件が提出され、服部議員、伊藤議員、磯崎議員の3氏が一般質問を行った。

令和7年度各会計決算の説明のあと、決算審査特別委員会を設置し、16日に同委員会に付託された決算審査の審査を行い認定され、提出された議案は、全て可決され会期を1日残して閉会した。

○一般会計補正予算（第3号）
追加　1億3039万2千円
総額　56億3733万3千円

○介護保険特別会計補正予算（第1号）
追加　438万4千円
総額　4億7519万4千円

○風力発電事業特別会計補正予算（第1号）
追加　1292万5千円
総額　4億6976万9千円

○簡易水道事業会計補正予算（第1号）
追加　497万1千円
総額　4億1124万5千円

（主な補正）

・苫前厚生クリニック経営損失補償金	8892万円	追加
・麦類生産技術向上事業補助金	652万7千円	追加
・上平共同利用模範牧場給餌場オーバースライダー修繕工事	224万4千円	追加
・八号沢川河岸補修単独災害復旧工事	141万9千円	追加
・松下沢川河岸補修単独災害復旧工事	273万9千円	追加

令和8年第3回定例会　9月15日

（主な議案）

○令和7年度健全化判断比率及び資金不足比率

実質公債費比率　7.7%

25%が早期健全化基準であり、本町財政は健全である。

○専決処分の報告と承認

一般会計補正予算3万円追加

（物価高騰の影響により、小学校合同修学旅行の補助金に不足が生じたため）

○古丹別地区多世代交流・多機能型拠点施設の設置及び管理に関する条例

今秋にオープンする施設の管理運営を行うため制定

○公共施設等整備基金条例の一部改正

整備等に係る地方債の償還に基金を活用できるよう改正

○令和8年度一般会計補正予算（第3号）

質　伊藤議員

プレミアム地域振興券は予算内で発行されているのでは。デジタル商品券の計上は何か。

答　加賀谷総合政策室長

デジタル通貨分は町会計を通した方が有利であり、当初の予定よりデジタル通貨分が増えたため、補正計上した。

○令和８年度介護保険特別会計補正予算（第１号）
○令和８年度風力発電事業特別会計補正予算（第１号）
○令和８年度簡易水道事業会計補正予算（第１号）
＊各特別会計と企業会計の補正額は前頁参照
○教育委員会委員の任命同意
今　浩二（字苫前）
任期　令和８年10月１日～令和12年９月30日

意見書

国土強靭化に資する社会資本整備等に関する意見書
［提出先］
衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・総務大臣・財務大臣・国土交通大臣・国土強靭化担当大臣

一般質問

Q 運転免許証の自主返納者への支援は
A にこにこタクシー運行事業等の活用を



質問　磯崎議員

近頃、周囲の高齢者から、運転免許証更新時講習の認知症検査が大変だという声が聞かれる。

道内の他市町村では、高齢者運転免許証自主返納に対する支援を行っている町村もある。運転免許証を自主返納した人に特典を与える制度は出来ないか。

高齢者が運転免許証を返納したら買い物にも行けず、近隣の友人の所にも行けなくなって外出する機会も少なくなり、社会から孤立するとともに身体的・精神的健康に深刻な影響を及ぼす。

苫前町として運転免許証を自主返納した高齢者に対し、不便をきたさないよう、バス料金の支援等が考えられないか。

答弁　福士町長



年齢を重ねることなどにより自動車の運転に不安を感じる方などが、自らの意思により免許証を返納する制度であり、交通事故の防止と道路交通の安全確保を目的としたものである。

また、運転免許証の更新時に行われる、70歳以上の方を対象とする高齢者講習や、75歳以上の方を対象とする認知機能検査についても、高齢運転者による交通事故を防止するとともに、運転に必要な能力や知識、技能の状況を確認することなどを目的として実施されている。

免許証を返納した後も、買い物や通院、地域での交流など、日常生活に必要な移動手段が確保されていることは重要であり、こうした移動への不安が、免許返納をためらう要因の一つとなることについても十分に理解をしている。

本町は、70歳以上の高齢者や障害者手帳所持者などを対象とする「にこにこタクシー運行事業」を実施しているほか、生活路線バスの維持確保や、へき地患者輸送バスの運行などにも取り組んでいる。

しかしながら、今後は、認知症患者が増えている状況や高齢運転者による悲惨な交通事故が続いている中、国が免許証の自主返納を積極的に進めていることなども念頭に置き、免許証の自主返納者への特典については、苫前町地域公共交通活性化協議会などの場において議論し、検討したい。



一般質問

Q 苫前小平線の早期完成を！期成会設立を受け今後の取り組みを
A 広域連携で北海道へ強く要望



質問　服部議員

留萌管内を結ぶ国道232号は重要な幹線道路であるが、災害等で通行止めになった場合、地域生活や経済活動に大きな影響が及ぶ。特に留萌市方面への救急搬送など一刻を争う場面を顧慮すると、別ルートの確保は町民の命に関わる最重要課題である。こうした中、未開通区間の整備を求める「一般道道苫前小平線整備促進期成会」が令和7年4月に設立され、関係者が一体となって整備実現を求める新たな段階へと踏み出した。長年にわたり地域が望んできた道道苫前小平線の早期完成に向け、次の3点を町長に伺う。

1、研究会から期成会へ移行したことを踏まえ、今後は期成会を中心に、北海道への要望活動などをどのように展開し早期完成につなげていくか。

2、行政だけでなく議会や地域住民、関係団体が道道苫前小平線の必要性を共有し、一体となって整備促進を訴えていくことが重要と考えるが、今後どのように連携し機運を高めていくか。

3、道道苫前小平線は生活道路だけでなく、災害時の代替え路線や救急搬送を支える「命の道」として重要な役割を担う。その必要性や緊急性を北海道に対してどのように訴え、地元道議会議員とどのように連携していくか。

本事業は町民の命と次世代の子どもたちの未来を守るための重要なプロジェクトである。行政、議会、町民がワンチームとなり、地域一帯となって北海道を動かしていく強い決意を強く要望する。

答弁　福士　町長

令和7年度は、期成会として初めて北海道留萌建設管理部、北海道庁建設部、北海道議会建設委員会に対して要望活動を実施し、本路線の必要性や地域の強い期待を直接伝えた。費用対効果B／C、の厳しさは認識しているが、単純な移動時間の短縮だけでなく、代替路としての機能、救急医療や産業、物流などに果たす役割なども含め、総合的に捉えていく事が重要と考えている。

近年、災害の激甚化・頻発化を踏まえれば一本の道路に依存するのではなく、災害時にも人や物の流れを確保できる道路網を平時から構築しておくことが重要である。いつ起こるかわからない災害だからこそ「平時から備える」という防災・減災の考え方に立てば、生活道路としての機能のみならず、町民の命を守る「命の道」としての本路線の必要性は極めて大きい。

本路線の整備は苫前・小平両町だけでなく留萌管内全体の課題である。隣町である小平町をはじめ、管内各町村ともしっかりと足並みを揃え、広域的な連携体制のもとで共通の目標に向かっていく。今後は、期成会を中心に管内市町村や関係団体、さらには広く地域住民にも呼びかけ、より大きな地域の声として一丸となって北海道に必要性を訴えていく。実現に向けて地元選出の道議会議員ともさらに連携を強固にし、一体となって要望活動を展開していく。

未開通区間については今年度も北海道において前年度を上回る調査予算が確保され、ルートを含めた精度の高い調査・検討に必要な協力を全力で行い事業化に向けた課題を一つ一つ丁寧に整理していく。今後も関係機関や地域住民と連携し地域全体の声を一つにして、早期完成に向けて引き続きしっかり取り組んでいく。



未開通区間地図

一般質問

Q 水質確保と断水時の無料入浴を

A 水質異常の監視強化
断水発生状況等により無料入浴を判断



質問　伊藤議員

北海道根室市において、令和8年7月26日から28日まで、最大1万3千戸の断水が発生した。原因は、水源地の水温上昇により藻が大量繁殖し、浄水場の濾過装置が目詰まりを起こした事によるとの報道であった。

本町においても、根室市のように水源地が水質異常になる可能性はあるのか。また、同様の事案が起きた時の対応策は。

水道管の老朽等により、町内で断水が発生した場合、行政において生活用水を配っていたが、これと併せて衛生面でのきめ細やかなサポートとして、町内の一部地域において3日間以上の断水が続き、ふわっとが営業中であれば、断水となっている被害世帯が無料入浴できないか。

答弁　福士町長

根室市の事故は、オンネ沼及びタンネ沼を水源地とする水道事業において、藻類の急激な増殖に起因するろ過装置の閉塞により発生し、全面復旧までに約3日間を要した。

本町の水道事業は、古丹別川の中流域にあたる岩見地区に岩見取水場を設置し、1日約2千トンの取水を行い、日夜安全な水道水を供給している。根室市のような水源地ではないことから、同様な可能性はないと考えているが、過去には上流域におけるクレーンの横転事故による油の流出や、大雨による大量の土砂・濁水の流入などの発生があった。

まず水源地における水質監視強化と、水質異常の場合に状況や原因を確認した上で、国の定める「水安全計画策定ガイドライン」に基づき、適切な対策を講じて、万全を期する。

無料入浴については、発生した断水が小規模で被災世帯が少ない場合には、原則可能と判断し、無料入浴を実施したいと考えている。

一方で、断水が大規模で被災世帯が多数に及ぶ場合や、断水の規模、公平性の担保等多くの住民に理解され、かつ、ふわっとの事業継続の許容範囲を超えないといったことなどを勘案する必要がある。したがって、どのような断水が無料入浴の判断になるかについては、発生した事態の個別的、具体的な状況に即して、町が全ての情報を総括したうえで、その都度判断する。

本町では昭和35年1月に古丹別簡易水道浄水場において供用を開始し、人口の増加や生活様式の変化、水需要の増加などに対応するため、昭和61年に現在の苫前浄水場と臨海配水池が完成、さらに令和2年度から令和9年度まで国の生活基盤近代化事業において、耐震化工事や更新工事を実施し、長寿命化を図っている。

なお、町内全域の配水管などの管路は、使用開始から40年以上が経過し、老朽化が進んでいる。

主要な配水管で事故が発生した場合は、広範囲で断水が発生する恐れがある。今後、町民の安全安心な生活を守るため、水道水の確保が確実なものとなるよう、水道施設や配水管の改修など水道インフラの長寿命化、強靱化を順次進めてきている。

まずは生活用水の供給を最優先事項として今後とも全力で対応する。



苫前町浄水場

決算審査特別委員会

委員長　　田沢　收

副委員長　伊藤　まち子

議員より選出の監査委員（村本隆議員）を除く７名で決算審査特別委員会を設置

【一般会計】

質　伊藤委員
「ふるさと苫前」地場産品振興プロジェクト業務委託料の成果は。

答　加賀谷総合政策室長
令和5年から令和7年の3カ年の事業であり、3年間の実績は、移住定住で5名、関係人口は目標の半分で１５０名純増であるが、ふるさと納税を通じた方や北海道大学の学生と交流を深めることができ成果は上がってきている。

質　伊藤委員
ふるさと納税は数字が上がっていないが。さらなる努力を。

答　加賀谷総合政策室長
大量生産地でもなく大量消費に乗りづらい。生産品に高付加価値・ブランディング化で価値の高さを認知してもらえるよう、町外に発信していく。

質　伊藤委員
教育費のコンピューター賃借料の内容と今後は。

答　宮前こども教育課長
町内小中学校教職員用パーソナルコンピューター60台分リースで、令和9年10月までの契約である。リース終了後は無償譲渡となる。使えるうちは使用するが、速度の低下など学校側からの報告もあり、予算要求に反映したい。

【総括質疑】

質　阿部委員
令和7年度は、消防署建替、苫前クリニック新設、若者交流センターB棟増設と町民の安心安全に大きく寄与できた。地方債の借り入れより、償還額が上回り、財政も数字的に良くなってきている。
経費削減ばかりではなく、収入である「ふるさと納税」は今後も進めていっていただきたい。

答　福士町長
令和7年度は黒字決算となり、基金残高も38億6千万円となり、実質公債費比率も良い数字となった。
国の事業を掘り起こし選んで、あらゆる国庫支出金、交付金、補助金、有利な地方債を今後も有効に使い事業を実施していく。

委員会レポート

臨海地域特別委員会　9月2日

○新日本海地域交流センター駐車場照明補修
駐車場内において操作誤りによる物損事故が発生し修理
自動車物損事故損害賠償金として、１８７万円

○新日本海地域交流センターに係る指定管理者の公募
令和９年４月１日～令和14年３月31日までの５年間

医療対策特別委員会　9月2日

○苫前厚生クリニック経営損失補償金
８８９１万９千円


損傷した外灯

所管事務調査　9月2日

○苫前中学校
○北留萌消防組合古丹別支署
○多世代交流・多機能型拠点施設建設現場

○配水管漏水修繕現場
○新基本計画実装・農業構造転換支援事業現場
　JA大豆倉庫
○苫前町公民館
○上平共同利用模範牧場
○観光施設改修状況
　オートキャンプ場
　未来港公園

総務産業常任委員会
9月2日

○公共施設等整備基金条例の一部改正
○産地生産基盤パワーアップ事業
　スマート農機の導入
　事業費　8億1117万円
○麦類生産技術向上事業
　施肥・防除体系の構築
　事業費　652万6千円
○有害鳥獣被害対策
・アライグマ捕獲奨励金
　実施期間　4月～6月
　135頭捕獲
・クマ撃退スプレー使用法等研修の実施
・「ひぐまっぷ」の運用
○上平共同利用模範牧場の整備
　給餌場オーバースライダー修繕工事　224万4千円
○町有林人工造林地の状況
　広葉樹を8030本植栽し、8年度まで下刈を実施
○北るもい漁業協同組合苫前支所共同作業所における火災
　北るもい漁業協同組合及び関係者と協議し、必要な対応を検討する。
○大雨による被災状況
　八号沢川積ブロック・松下沢川連節ブロックの被災
　事業費　415万8千円
○古丹別地区における配水管漏水修繕
　設計業務委託料　592万5千円
○令和7年度教育委員会事務事業の点検評価
○公民館の改修の方向性
　33年経過し施設全体が老朽化しているため、3カ年による大規模改修を計画
　改修総額予定　16億3881万3千円

議会広報研修会
令和8年8月18日

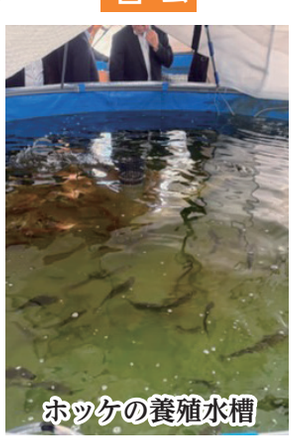
　ポールスター札幌
　講師　議会広報サポーター
　　芳野　政明氏
　演題　議会の見える化＆住民との信頼関係～議会広報の基本と編集～

留萌管内町村議会議員研修会
令和8年8月26日

　初山別村自然学習センター
　講師　旭川市立大学
　　地域創造学部地域創造学科
　　教授　工藤　公仁氏
　演題　地方創生とは何だったのか～留萌地域の未来を見据えて～

道内行政視察
令和8年10月7日～8日

○白老町　閉鎖循環型陸上養殖試験事業
　本町の基幹産業である漁業の未来を見据え、白老町にてホッケの陸上養殖技術を視察した。
　海水温上昇などの環境変化に左右されない閉鎖循環型システムによる、ホッケの飼育は当初の想定よりも早い成長スピードを達成している。
　現場で数々の課題を財産と捉え改善へと繋げる強みや、将来に向けた明確な計画を拝見し、水産業が抱える同様の課題を解決するための非常に大きなヒントを得ることができた。


ホッケの養殖水槽

○栗山町立北海道介護福祉学校
　栗山町では、最新の機器を取り揃えた町立の専門学校として超高齢化社会を支える温かな人材を地域全体で呼び込み育て、国家試験の合格に向けて日々努力を重ねる独自の教育活動や、本町を含め全道24市町村と人材確保に向け包括連携協定を結んでいる。特色ある学びと、介護人材育成への熱心な取組は勉強となった。
　今回の視察研修を、産業や福祉など議員活動に活かしていきたい。



編集後記

　豊穣の秋を迎え、町内では稲刈り作業の真只中であるが、生産者米価は昨年に比べ、大幅な下落となりました。生産者の皆さんは、資材や肥料等の高騰により経費が嵩んでおり営農環境は大変だと思います。
　消費者は従来の価格に近くなることが予想されるので家計にはありがたいと思います。
　生産者や消費者の両者にとって納得のいく価格で取引がされるのが一番ベストなのですが、頭の痛いことです。
　これから、厳しい冬を迎え、中東情勢が非常に気がかりです。灯油価格が上昇しなければいいのですが。
　私も古希を迎え、日々体力の無さを実感するようになりました。健康に留意し厳しい冬を乗り切りたいと思うこの頃です。

　文責　田沢　收